

平成23年度 国立江田島青少年交流の家 教育事業

われら瀬戸内探偵団～瀬戸内海の環境を守ろう～ 実施報告書

【趣 旨】 近隣の瀬戸内海岸での生物観察・調査からスタートし、瀬戸内海域へフィールドを広げ、環境問題について考えていく体験的・問題解決的な環境学習を実施する。これらを通して、いま自分達に何ができるかを考え、環境保全・保護に配慮した積極的な行動がとれる意欲・態度を養う。

【主 催】 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【共 催】 国立大学法人 広島大学，江田島市教育委員会

【期 日】 平成23年7月22日(金)～7月24日(日) 2泊3日

【実施会場】 国立江田島青少年交流の家及び荒代海岸周辺
大柿自然環境体験学習交流館及び周辺海岸
広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」，瀬戸内海海域

【参加者数】 22名（小学生20名 中学生2名）

【講 師】	広島大学大学院生物圏科学研究科	准教授 橋本 俊也
	広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」	職員
	大柿自然環境体験学習交流館	館長 西原 直久
	国立江田島青少年交流の家	企画指導専門職

【企画・運営のポイント】

- ① 参加者の意欲を高め、課題意識をもって体験的・問題解決的な環境学習に取り組ませるために、探偵依頼「瀬戸内海は、きれいですか？」を提示した。また、探偵依頼に答え、全ての活動や調査をまとめられるようにガイドブックを工夫した。
- ② 近隣の海岸を使った体験・調査については、江田島の海岸や干潟の生き物について詳しく調査を行っている大柿自然環境体験学習交流館館長で博士(理学)の西原直久氏に指導を依頼した。
- ③ 瀬戸内海域については、広島大学大学院生物圏科学研究科准教授橋本俊也さんに「海洋観測の重要性」の講義をしていただいたり、広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」でさまざまな海洋観測を行ったりした。
- ④ 初めの2日間で体験・調査をしてそれをまとめた。そのまとめをふまえて環境保全・保護のために、自分たちができることを考え発表し、最後の1日でそれを実際に行った。

【活動の実際】

〈7月22日（金）〉（1日目）

13:00～ 受付

13:30～ 開講式，オリエンテーション

14:00～ 手がかり1 大柿自然環境体験学習交流館にて講習と周辺海岸で
海辺の生き物観察

18:40～ 夕食，入浴

20:10～ 手がかり2 なぞの生き物の観察会

22:30～ 就寝



大柿自然環境体験学習交流館での講習

干潟でのカニ観察

〈7月23日（土）〉（2日目）

6:40 起床

7:10～ つどい，清掃，朝食

9:30～ 所発 小用港へ

10:00～ 手がかり3 豊潮丸での海洋観測
（船内で昼食）

15:50～ 小用港着

16:30～ 所着

17:00～ つどい，夕食，入浴

19:00～ 探偵依頼にこたえよう

22:30～ 就寝



豊潮丸



講義の様子



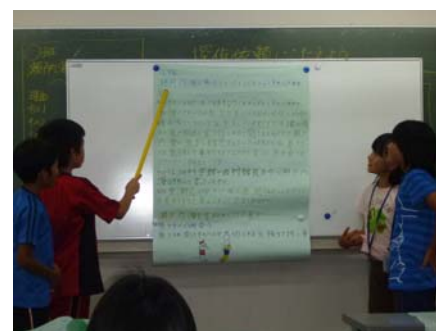
豊潮丸での海洋観測



探偵依頼に答えよう



班でのまとめ



依頼についての発表の様子

〈7月24日（日）〉（3日目）

6:40 起床

7:10～ つどい、清掃、朝食

9:00～ 瀬戸内海的环境を守ろう① 海岸清掃

10:00～ 瀬戸内海的环境を守ろう② 瀬戸内海に生きる魚を知るために釣ってみよう

12:00～ 昼食

13:00～ 退所点検

13:30～ 振り返り、閉講式

14:30 解散



活動の振り返り

【成果とその普及】

- (1) 「瀬戸内海は、きれいですか？」という課題を提示することで、講義の中で、「きれいさ」について説明があるときに特にしっかりメモをとる等、参加者がそれを意識して体験活動や調査を行ったり、講習や講義を聞いたりすることができ、考えが深まった。
- (2) 「きれい」ということが、見た目のきれいさだけではなく、そこに生きる生き物にとってのきれいさということに参加者が気づき、「魚のえさになるプランクトンが豊富で魚の種類が多い瀬戸内海は、沖縄の海のように青く透明度は高くないが、きれいなんだ。」という発表をする等、瀬戸内海に対する見方や考え方が変わっていった。
- (3) 瀬戸内海に住むいろいろな生き物を観察したり、生き物に触れたりすることを通して自然とふれあう楽しさや感動を味わい、17人（22人中）の参加者が、瀬戸内海を大切にしたいという気持ちをもつことができた。
- (4) 自分たちが環境のためにできることとして、「身近な環境や生き物についてさらに知り、それをみんなに伝えていく」という意欲的な感想があるなど、環境保全に対する意識の高まりが感じられた。
- (5) 探偵依頼に答えるためにグループで模造紙にまとめたり、全体で発表したりすることで、考えを共通理解したり深めたりすることができた。
- (6) 本事業の成果として、平成22年度から「海辺の生き物観察」をプログラム化したが、今年度、研修利用で来所した20以上の小学校や団体が、このプログラムを実施する等広がりが見られる。

【来年度に向けて】

- ・ 練習船の日程に合わせなければならないが、潮汐を考慮して当施設の近くで観察できるアカテガニの産卵も参加者に見せたい。